858
95

国立国会図書館　タイトル『法法華経』 請求記号 858-95

ガラス使用

858-95

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95

ガラス使用

時にて人の好事を模倣なく
さまるを惜のあまりまるなるへき
芝居に華経のもる所以なるは華経
時量品七字の恩と追慕するも

朱拾貳 士朗

法法華経黄鸝品第一

帝國圖書館藏

雷震初音かくれん若みえ　白圖
をこのすをうりけり曙　岳格
山陰の雲八面芝の香ふゆりて　士朗
ふるの蛙を清る溝川　徐英
咲ケハ是さけのこれ有る杜若　駒六
ふくは一日ばかりきり　白図

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

白波かなを面白なをさく　岳洛
雛菊　目のええぬ門口　士朗
老僧の木葉掃んかとこかな　徐英
このさるくに来てくゝ　俎板　騏六
古郷のたすもちらき秋の風　昆明
なるみ　長さふまつの孫　方明
ちゝをもれ月い　姑ふたりよひて　白圖
妻をうめまる深草の山　岳洛

却用後乳ふ信来て仏ハこすくこ　士朗
柿　花　繁れ　ちゝとちる　徐英
蜜うあ　一本の榴　手　古く　騏六
おを惜めとを　む　丁　の　昆明
旅人ゆうを　君なゝ　小　盃　方明
夜のやうをちきる蟬　さ　白圖
ゆのなふ　をとゝ　る　岳洛
恋の清　小ふ　新しふるまて　士朗

うつゝき君う渡るを送りて　徐英
木戸をかゝめふあける炬の火　騏六
今は習ふ昆頂のゝ秋とゝまん　昆明
松農雀の世をを忘れたる　方明
味噌の香のさゝぬ芭をはまこ孫　白圖
蛸子の宮雲舟をたりおス　岳裕
ゝ秋ふ何所てけるゝ三日の月　士朗
小芭ゝ多ゝる数の霜　徐英

暗突雲後ふ陸にてゝあるゝ　騏六
南無阿弥陀佛とゝ鉦を踏ゝ　昆明
情ゝるなふゝゝ人の何るゝ　岳裕
みゝゝ秋も秋ゝ紅ゝ　白圖
懐を花の木の宵と舟を使ゝ　方明
ゝ弱雲山をゝる寺　風　士朗

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

雪は梅ふる場はなりけり　北雲

うぐひすのなくも鳴るなり月と梅　士朗

春風の里みてそ

菜畑の時をもつくるなり日のあ　椿堂

きらく記廿五日

春てよもふるは雪は野哉　方明

雪の雪を踏のく山路のな　徐英

うぐひすの初日の昇き佛の上　羅城

雪は降るとも小庭哉　玉湖

雪の新しゆく程のふ　青稔

雪の仏かゝ春の四季の新　杜常

うぐひすの時たふる春の廣野　槐圖

雪の蔭かけたる山もこの風　自樂

宗祇法師を持ちて来る

たゝみをを人老

雪ふかの人宗祇の小短冊　竹有

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

うゑ[illegible]ふる[illegible]の際　素剛
うゑひすの小すてりうの白の梅　猿左
[illegible]の時ゝ[illegible]ふる日ハ[illegible]　岱青
うゑ[illegible]雨の笹山時ゝ　墨山

青梅品第二

面の中に四五本[illegible]梅[illegible]　方明

梅見てゆく人のゝりうり　椿堂
[illegible]を[illegible]て[illegible]
郊居を[illegible]金華の口号
[illegible]梅や日ハ曇て[illegible]　騏六
川上や雪降梅ゝりこの南　八素
[illegible]梅の[illegible]羽黒　素外
[illegible]の梅ふかる小池ゝ　天老
[illegible]梅[illegible]ふけり　百池

青柳農を見て考り蒲菓川　大阜
雪柳ふはゝ雪を月に見れば　魯雄
月ふらゝ八ゆのさりかゝれ雪柳　棋價

寄白岡老人

柳樹〳〵人思ふ〳〵流れを　九成
雪柳ふ巡る社陰を登こゝろ　大江光
汐かゝり〳〵柳の東下の風　素光
雪の東農雪ふ柳の一ぬり　岳格

雪柳が面白小雪のひとゝろ　士朗
久柳雪〳〵雪日ふてゝれ雪　亜満

梅花品第三

花ゆえ名ゆ花おゝ梅哉　羅城
雪消かゝる梅戸のさゝ　士朗

何ぞとかまさるまぬ英哲の事　岳裕
月はあらじ　服刑をぬぐ　桂五
かろうと鞋は命をかくし給へ　少汝
貧の小竹ひまる菊の香　斗入
四方山の氣色をあかしかな　羅城
寺をいづるものの破鞋を法　士朗
きぬぐぬふたかれたる人のあり　盛書
年擂ゆりは風もしかるまる

かるものよ我の古巣ふかへる事　岳裕
麻は衣を破ぐ四ン月　桂五
まてとは今を必の浪の上　少汝
御廉の新さうなる藤皆火　斗入
桑点も芽ふ庵をたてこめて　羅城
月うかくとて鞋鳴り　士朗
かのうまて一里に二里桑の也　盛書
六田の去農　為ふ　阿火　少汝

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

僧正北斗七星の護摩
所の病を祈るに
出る事の如くに
報恩の為に小さき
羅城門の如くに
あるべしの事なり
とありていさゝか
なりとも
桂五

七

岳輪
斗入
羅城
岳輪
盛青
士朗
桂五

少海
士朗
羅城
斗入
盛青
岳輪
桂五
羅城

八

芙蓉の花の如くに
八月の頃より
弱うまけ
菓子袖うちはらひて
はゝ
まゝ
百足の蟲
牛の君

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

花もさく春の雲かとみるまでに　斗入
春ぞ見わかぬこのすむ大空　少詩

蓬莱先ひらけぬ世々の梅　天老
四つの宿の梅おそくぬる人を所　北雲
北野社前にて
うめの花白きいと神のんの前　長斎

いつ不見よりてらす細咲梅の花　玄光
ひとりすむて見るかな海梅の木の前　硏松
白梅の花の木の下　梅のはな　柳荘
梅の香の俗の彩　竹有
うぐひす春の山路　杜石
横雲の梅の花　士峰
春霞一刻價千金
梅一本もちて年をかぞへる春の雲　松兄

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

宿井ふ雲毎ふ雪ふり梅花　大夷
老て春雨雪あちこち一ちんにさく　逸渓
よへハ見るるるひりり庵の梅の花　阜池
お梅の花ふえさやる答の面　文兆
紙衾ほよ孫前ハ雪の花　月居
ちこ梅やひまりふさよ人も来て　外六
うへうまるるたまつくゆきの消ち　ゑ松
れちめて月ハてこちめのはな　呂利

うへうまるるちこ月の押うる　左語
枯井ひふまのおしこ日ふて
小おふるまてあるを女のまゝ
ちりふゆんとひのふ
梅うるふぬのてもはんてき月雨ふ　寿松尼
丈山ち雪ふゆゆうまこ雪の面　方朔
雪井雪増ゆの屋も旨の下　春彦
山ふふ梅さるのくうへうの毛　駅六
ちるて梅かりくふうへ庵ふ　白圃

ひとの行ふ跡ふかしや　梅の花　素檗

春雪品第四

雪の雪梅の雪ふるうち　自楽

雪風のまうけ来る小雪哉　桂五

ぬかるかぬ〻ぬる〻ぬるの雪　松兄

雪の〻流れ方ふる行ける

雪深う〻あまる金屏風ひろげて

西日雪の障子にても成合　紀鳳

いせ浦や波ゝまうあるる雪　自徳

古寺や雪の雪ふる岩月　素鄰

雪の雪浦の苫屋も松たて　弁入

まるみ雪降るハ老のちのの所　杜九

風流の底をぬけ来る雪の雪　蘿圭

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

[illegible] 彫門

朧月品第五

月出て世一切の朧なる　趙郡
あまつ空なる雲の羽衣　魯隠
[illegible]る月哉　岳格

舟中

おぼろ月さしのぼりぬる男山　昆明
おぼろ〻〻
松よりはかすかに上りおぼろ月　如高
其の月添おぼろ川　可都里
朧なるさゝなみおぼろ月夜　青霞
[illegible]ハ[illegible]おぼろ月　空阿
人ゝ集て添おぼろの月　素碌

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

燈ゆ消ゆる君ゆゑ似る流月　芦涯

氷郭塚

嚴法ゆたかに開く蓮の月　素外

舟ゆく人も這あよ如ゆ弱月　紀鳳

山ゆるの蘇海ゆ如ゆ弱月　重羽

ゆゆ〜ゆ赤ゆ如ゆ柳ゆ如ゆ滝月　桂五

鳴蛙品第六

淋しさい人ゆ如ゆ蛙　蕉雨

昼ゆて回ゆ如ゆ蛙　大阜

雲ゆ郭ゆ雨ゆ如ゆ蛙　白圖

蛙ゆ〜ゆ底ゆ如ゆ蛙　子縄

蛙ゆ〜ゆ底ゆ如ゆ蛙　墨山

鳴蛙ゆ如ゆ如ゆ蛙　芦九

豊川といふ所にまうて
る豊の国なる山ぶこのな　帶棋
御戸山ふて、
はなく〳〵はるかの本はるか　代青
ゆくりくいくまでとゆく　友圓
山ぶかさるはのまを見この所　入素

陽冬品第七

かけろの夢はうとなる蜻蛉　士隨
机せん夢をさらふ夢　代青
大せうる花ふち橘の園すこそ　帶棋
風のきさゆる春ふかこそ　紀鳳
かるふこそあはき月の　大阜
雑事の多き宿の秋風　黒山

まるまつ村にて　伐書
大伯とゝ温泉にゆかせ給ふ　士朗
尼御前の姫の袂もとゝ尼　紀鳳
脇ふ敷さて　生業者　帯棋
出さんやなるふまする郭公　墨山
蛛の南北かゝ　五月の　大阜
月逝を吟ぜ年祭を孫と居り　士朗
潺湲かゝる恋のありさま　伐書

水辺より紀孫を導き　帯棋
為ぬ作ゝ百のゝ　紀鳳
山猿の矢を負ふ姫子をよさけ　大阜
年を迎へる六十農　墨山
梅ゝ雪ふ白髪のゝ窓のか　伐書
巌の這ゝ岩かりおす　帯棋
御衣農汗ふ為ゝる仏達　墨山
萱ゝ手ゝ手ゝ色ゝ　士朗

ゆけいみまを行こるかのく　紀鳳
あ〳〵ゝ　ろやまの窟の仮　大阜
松をとをとを本書屋を屋を　帯棋
ゆ〳〵を以ゝ〳〵八月の月　岱書
物屋を不破の小あふんを弟う　士朗
中ねとの〳〵ふ〳〵ゝさの　紀鳳
目はゝの涙をいふふこうめゝを　岱書
更てゝ〳〵自むを白ゝ　墨山

小ゝ〳〵世ふゝいと紙の明るん　大阜
以つゝ花ゝゝ湖の雪　帯棋
数節を見ふゆゝ人の拾て　紀鳳
かりけやゝりを知すふ彩厳　士朗
久著ふ自清の言き合　墨山
ゝ〳〵屋の如見るゝ白　岱書

伽法ふ袖をかうてうとなる　長爵
かけろの毛カうて眠る人　斗入
この者ろの毛神ふすあるの脂　与池
伽家や河豆消る松のひま　羅城
かけろの松葉ぬるふ油四　北如
伽竹や馬の鼻花ら牛の角　白圖
伽家の多い伽のさらのなの上　少海
伽竹の人ふ別者るふ廉　徐英

混雑品第八

琴や衣ふ三まる秋の嬢　白居
来て見れ何の言る形小夜姫　物栽
かくくの清水を飛るふ涙の乙
ひまるくうちてんをくたり
水れくとの流るれ
うらなふ毛ろ毛の乙　青阿

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

閑了半日

佐色しく礼の上や佛衆後　于當

中の言やうをとてを松の影　一之

中〻ふ穂葵たよ　秋の水　唐水

山居

来ぬまでも客ふ人のまれ雪　竹人

新影や指を炉の煙　蛙聞

月入て夕月ひ〻ぞこのな　洞里

伸る雲ふ雲ふ雲ふ　雲帯

玉ゆ雲や桜ふ川　圃曉

菊の枝〻ふ
風流の世ふ彩色〻
佐雲の風ふのてめるたよ

もく〻して〻鶴〻色雲の雲ふ　蚩伯

ふ〻して雲雲ふ形〻ふ稲　若人

ゆ〻ふ〻ふ雲ふ雲ふ山　双鳥

ふ雲ふふ雲ふ雲ふ　其谷

雪月や弦せる琴の上　蕉雨
月と花とたのむ春事哉　雄淵

菊雪

三日月ハ己ら仙家北月花のあ　李臺
所あきそ花をあやしくたとる
ゝゝあかるゝて行きある
きぬかすり月ハうみ雲の雪　騏道
人ふたゝて雪の頃戸口哉　希言
暑りや部屋ぬ清の雪　菊溪

夷風の月ハ吹あり山の上　長翠
秋の雨清より高る雲哉　蘭二
かりゝあ月雲ふれ雲居り　素芳
中天をゝゝもあゝゝ言月　芸門
牧笛ハ川洲の雪ふなく八何　可童
雄子ハ雪月ハ松ふかりゝ　鶯園

海海乃中

一日八風ふ野事の雪の指　沙漠

風もまことに二月の彩雲　五明
露を乗るものひとの蜉蝣の光　棋價

送人

松明の光みちきり秋の風　閣叟

灌園

槽や何茅ふきて砂の上　卧央
うつし植しんを乗て萩の露　庭甫
露萩の乱るるもうり畑の跡　延至

二日川芦ふ二日の高の月　五周
ふすきと上の厚ふ乱　丈左
ゆるるるるるるるしの苔の苔　垂龍
鍋鎌や豆腐代ものうけ所　梟兆
山路をうて芝ふ雲吹ものり　知毛
穂芝の武ゆふの上ちつる藤弦　仙布
浪舟小萩の上ふ天ゆるかな　代室
ちる風のちよつと吹てやこそ　柳涯

なのよふ日あたりぬ如の家　啓甫
すきるを人のえふ来るる　大年
みよ〳〵ゆきの雪ふ盛り小松　松人
見ひおすふ人みる秋の夕哉　葛齋
懐くハ山ハ月出ても影也　雨滴
月新よ新のうけよ氣影よ　子宜
ふりうへり明やふ鹿のむすき　珉丈
其の義ひとるあきりく　春曉

二日ハそんゆるうあけしの宗　其成
きれふ松ふも明りあるふ　奥日
扇霞山神船ふゆるる　帯棋
ふ〳〵ゆきり山の上　昆明
きゆ石雲を延雲の家　蘭水
みふりを松ふを花燈　紀鳳
ある寺ふ一夜を明りく
炉をもを火を行時雨　羅城

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

858
95

2394

おかるとの人ふな形り秋の月　岳格
歌唱堂の法華経の音　少汝
山寺をもよりとゝまるこゝ　士朗
世のより宮ゐるる形ゝ　岱書

寛政十年正月

撰者　岱書
岳格

尾州永楽屋東四郎板

国立国会図書館　タイトル『法法華経』　請求記号 858-95
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『法法華経』 請求記号 858-95

ガラス使用